

学校教育目標

- 知「学び合う子」：人の意見を聞く。自分で考え、行動する。対話する。自分の考えをはっきり表現する。考えを述べ合う。
- 徳「なかよくする子」：やさしく思いやりの心をもつ。自分も相手も大切にする。互いの良さを知り認め合う。話し合い、折り合いをつける。
- 体「がんばる子」：粘り強く、諦めずに取り組む。勇気を出す。努力する。自分の良さを知る。

授業改善推進校

- ・学力調査結果の分析
- ・学びに向かう態度に着目
- ・指導と評価の一体化を意識した授業改善

社会背景

- ・生産年齢人口の減少
- ・少子高齢化
- ・グローバル化、技術革新
- ・社会構造、雇用環境の変化

↓
 予測困難な時代
 (従来通りの価値観では持続不可能)

社会の要請

持続可能な社会の担い手の育成

- ・多様な変化に積極的に向き合う
- ・他者と協働して課題を解決
- ・情報の見極め、知識の概念的理解
- ・情報の再構成からの新たな価値づけ

↓
 カリキュラム・マネジメントの実現

児童の実態

- ・基礎的な学力は概ね身に付いている。
- ・学習に素直に粘り強く取り組むことができる。
- ・明確な道しるべがないと不安になる。
- ・自分の考えを発信したり対話をしたりする学習に苦手意識を抱いている。

教師の願い

明確な道しるべのない状況においても、得意なことを生かしながら問題解決を楽しむことができるようになってほしい。

はてなを楽しみ、主体的に追究する子供の育成 ～持続可能な社会の創り手を育むための問題解決学習の充実～

目指す児童像

答えのない問いや課題に対しても主体的に取り組んだり、活動の過程で新たな問いや課題を見いだしたりしながら問題解決に取り組むことができる子

研究仮説

生活科・総合的な学習の時間を軸にESDの視点に立った授業づくり（問題解決学習）を行い、主体的な学びにつながるよう導入や展開を工夫すれば、自らの考えで行動し、友達と関わりながら課題に対して粘り強く問題解決に取り組む児童が育つであろう。

【手立て1】

- ～児童の実態把握及び環境整備～
- 全国学力学習状況調査の活用
- 授業改善の実現に向けたOJT推進
- 計画的なカリキュラムマネジメント
- 情報活用能力育成環境の整備
- 安心して挑戦できる風土の醸成

【手立て2】

～持続可能な社会の創り手を育むための問題解決学習の充実～

- (1) ESDの視点に立った重視する能力・態度を盛り込んだ単元計画の作成
 - ① 批判的に考える力
 - ② 計画を立てる力
 - ③ 多面的、総合的に考える力
 - ④ コミュニケーションを行う力
 - ⑤ 他者と協力する態度
 - ⑥ つながりを尊重する態度
 - ⑦ 進んで参加する態度
- (2) 意欲を喚起する導入の工夫
 - 児童の疑問や意欲を高められるような事象との出会いや問いの工夫
 - 新たな問いを見出したり、自分の意思をもったりするための問い返しやフィードバックの工夫
- (3) 主体性を高めるための活動の工夫
 - 指導性発揮の場面と主体性尊重の場面のバランスを考えた指導計画立案
 - 児童の発想を大切に学習展開
 - 見通しをもたせる工夫
 - 振り返りの充実

教科等全教育活動

総合的な学習の時間
 (いっしょタイム)

ESD

生活科

自ら学びを進める児童

生きる力

持続可能な社会の創り手となるための構成概念の基礎の獲得